

性同一性障害を抱える子どもたちのためのジェンダーセンター開設のための人材育成事業
 (略称G I Dコーディネーター養成事業) 【紫の風・島根県障がい福祉課】

取組の背景

1. 性同一性障害についての理解が進んでいない
2. 誤った対応が目立っていた。
3. 適切に対応、ケアができる人材がいない。

事業概要

性同一性障害を医療対象として取り組んでいる先進地の岡山大学のほうから専門家を招いて少数精鋭での研修会を実施し、この問題にに対し理解を深め、適切に支援ができる人材を要請し、同時にその内容を1冊の冊子にまとめることで多くの人たちが情報の共有ができるようにする。

実施団体と行政それぞれの役割分担

紫の風：講演会、研修会の企画・運営・講師との調整、広報。冊子編集
 島根県障がい福祉課：県庁各課、学校関係者との調整
 アンケートの実施、研修会への協力

主な事業内容

講演会の開催（2012年8月2日）
 研修会（2012年10月～2013年1月）
 アンケートの実施、回収、分析
 データブックの作成、編集、配布

事業の主な成果

今回の事業は人材育成がメインであり、定量的分析より質の面での分析が適切である。
 講演会、研修会合わせた参加者は101名である。これに参加した人たちの多くは、専門家の話が聞けてありがたかった、あるいは、日常生活のなかで役立てたい、ワークショップがよかったという意見があった。

工夫・ノウハウ

団体側と県側との間で良好な人間関係を維持しながら、お互いの強みを相互に利用しながら進めていった。